

4-8. 平成29年度 給食状況

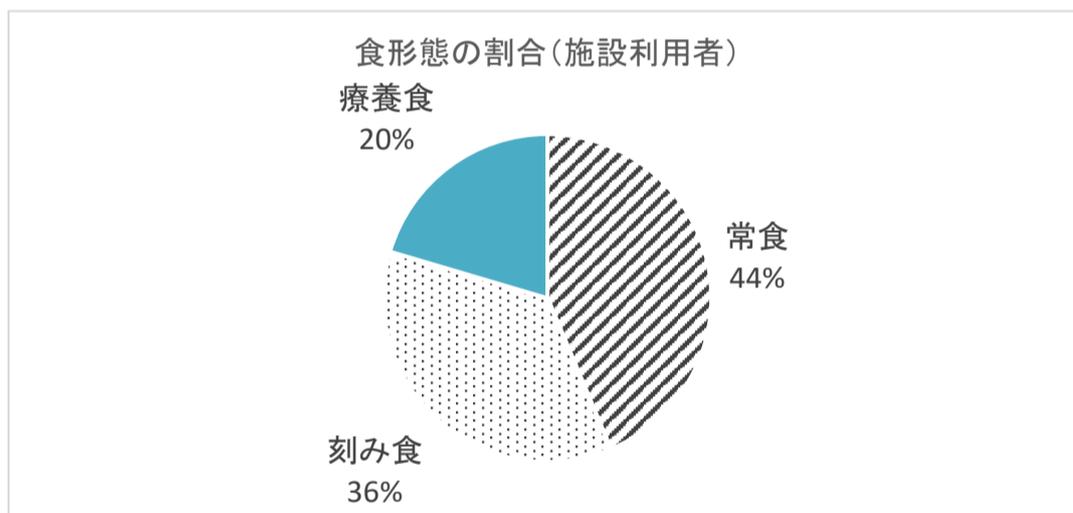
管理栄養士 池水 恵美

平成29年度から、栄養ケアマネジメントを始め、利用者様各々の身体状況等に合わせた食事を提供いたしました。利用者様の約2割の方が療養食対象になり、又、4割近くの方が刻み食になっています。今後、高齢化に伴い療養食の必要性、刻み食を含めた食形態の検討がさらに求められると考えます。

平成29年度年間給食実施総食数内訳

単位：(食)

区分 月別	施設利用者			ショート ステイ	生活介護	月別合計
	常食	刻み食	療養食			
4月	2,501	1,763	1,210	58	104	5,636
5月	2,958	2,061	634	46	68	5,767
6月	2,241	1,830	1,104	38	88	5,301
7月	2,301	1,891	1,145	55	109	5,501
8月	1,838	1,766	977	50	107	4,738
9月	1,946	1,673	1,088	45	118	4,870
10月	2,057	1,890	1,141	54	113	5,255
11月	1,947	1,854	1,088	76	103	5,068
12月	2,090	1,971	1,117	96	95	5,369
1月	2,154	1,858	1,110	108	104	5,334
2月	2,079	1,775	1,026	79	92	5,051
3月	2,749	1,754	921	55	79	5,558
区分別合計	26,861	22,086	12,561	760		63,448



給食栄養状況

区分 月別	熱量	蛋白質	脂質エネ ルギー比	カルシウム	鉄	ビタミン			食物繊維	食塩	
	(Kcal)	(g)	(%)	(mg)	(mg)	(μ g)	B1 (mg)	B2 (mg)	C (mg)	(g)	(g)
4月	1,794	60.7	18.9	537	8.4	525	0.88	0.69	96	16.9	7.7
5月	1,788	61.4	18.0	515	8.5	569	0.90	0.74	152	16.7	7.4
6月	1,766	61.8	17.7	522	10.2	1,008	0.97	0.75	102	17.4	7.3
7月	1,773	60.4	18.6	532	8.6	823	0.93	0.69	100	16.6	7.4
8月	1,772	60.9	18.0	535	8.8	1,229	0.95	0.81	97	17.2	8.0
9月	1,792	61.0	19.3	583	10.5	512	0.90	0.68	88	16.8	7.4
10月	1,796	61.4	18.6	557	8.3	764	0.90	1.59	92	17.0	8.0
11月	1,781	61.9	18.5	570	9.2	1,189	0.91	0.76	97	16.5	7.5
12月	1,784	60.2	19.1	535	8.7	1,125	0.89	0.74	95	16.4	8.0
1月	1,819	62.1	19.0	570	9.8	608	0.90	0.79	94	19.8	8.0
2月	1,791	61.6	18.8	573	9.8	616	0.88	0.69	89	17.8	7.8
3月	1,795	60.3	38.1	569	8.9	801	0.88	0.70	91	17.1	7.8
月平均	1,788	61	20	550	9	814	1	1	99	17	8
栄養所要量	1,875	55	20~30	675	10.5	775	1.1	1.3	100	19	8g未満

4-9. 平成29年度行事報告書

行事名	イースター・昇天者記念会	実施日	平成29年4月28日(木)
担当者	フローラ班職員		
目的	イースターの意味を知り、復活の主イエス・キリストの恵みと喜び、祝福(永遠の命・天国への希望・ご遺族への慰めと励まし)にあずかる機会とする。		
実施状況 評価・反省	<p>今年度は、エデンの園ふれあいの利用者、家族、職員も参加し、イースター礼拝・召天者記念会を実施。召天者の写真をデジタル化したことで、準備の時間を大幅に短縮できた。また、召天者記念会の中で、利用者による弾き語りも行われ、召天者を偲ぶことができた。</p> <p>反省として、法人全体での行事なので、入所施設職員だけで計画準備等を行うのではなく、地域福祉課職員も計画の段階から参加し実施していけたらと考える。また、昨年度も挙がっていたが、記念塔の定期的な清掃、管理も必要に感じた。</p>		
次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体での行事計画、準備、実施 ・記念塔の定期的な清掃、管理の確立 		

行事名	ゴールデンウィーク	実施日	平成29年5月4日(木)
担当者	ちゅら班職員		
目的	バンド演奏と生の歌を楽しんで頂く。		
実施状況 評価・反省	<p>5月4日に「井上ファミリーバンド」コンサートを実施。定期的に井上ファミリーバンドのコンサートを行っており、利用者の方も楽しみにされていた。馴染みのメロディーが流れると、自然と笑顔がこぼれ一緒に口ずさむ方もおられた。</p> <p>午後からは、お風呂に入浴剤を入れ、ゆっくりとお風呂を楽しんで頂いた。</p>		
次年度への課題	利用者の方が喜ばれるプログラムを企画していく。		

行 事 名	スポーツレクリエーション	実施日	平成28年5月31日(水)
担 当 者	フローラ班職員		
目 的	競技やゲームを楽しんでいただき、チームごとの団結を図る。		
実施状況 評価・反省	<p>当初は5月24日に実施予定であったが、感染性胃腸炎のため5月31日に変更し実施。開会式から利用者、職員共に楽しい雰囲気の中で進んだ。競技を「飛脚リレー」・「物送り競争」・「玉入れ」の3種類を準備し、それぞれの身体的機能・知的機能に配慮し競い合うメンバーを選出した。</p> <p>利用者の表情や状態をよく観察しつつ全職員、利用者が互いを配慮する中で進めることができ、全利用者が楽しく安全に競技に参加することができた。</p> <p>それぞれの身体機能等を考慮した上で競技分けをしたことで全員が平等に楽しく参加出来たのではないかと考える。また、職員の利用者への配慮がよく疲れなどを的確に判断している姿が見られた。準備段階において、係りへの伝達が不十分で主催班職員の負担が大きくなった。エデンの園全体の行事である為、全体で準備実施していくことが大事ではないかと考える。また、園内の掲示も無く利用者への配慮不足が見られた。</p>		
次年度への 課 題	準備が全体でできるように、連絡・伝達の方法を今一度考え利用者への配慮をできるようにする。		

行 事 名	エデンの園まつり	実施日	平成29年10月21日(土)
担 当 者	フローラ班職員		
目 的	季節を感じて頂き、模擬店やゲームを通して楽しんで頂く。		
実施状況 評価・反省	<p>今年度のエデンの園まつりは、地域の方も招いて実施する予定だった。しかし、当日が天候不良の為屋外での実施を中止。屋内で法人関係者のみでの実施となった。外部に、肉巻おにぎり、唐揚げ、まんじゅうの出店を依頼。出店により祭りの雰囲気を味わうことができ、利用者の方々も大変喜ばれていた。しかし、夕食としての提供だったので、刻み食や食事介助の必要な方に対しての配慮が足りず、祭りの大半を食事に時間を費やしてしまう方が出た。また、地域福祉課との連携も不十分で、参加有無や準備の協力依頼等が上手くいかなかった。</p>		
次年度への 課 題	<p>祭りの運営企画等に関して法人内で検討し、実施規模を決める必要があると感じた。法人として祭りを行う場合、実行委員会を発足し計画的に企画・準備を行う必要があり、各事業所単体で行う場合、利用者のニーズに特化した企画・準備が必要である。また、今回は実現できなかったが、地域の方を招いて実施することは、エデンの園の地域貢献、啓発に繋がると思うので、来年度も是非取り入れたい。</p>		

行 事 名	県央地区 スポーツレクリエーション	実施日	平成29年11月17日（金）
担 当 者	ちゅら職員		
目 的	様々なレクリエーションを通じて、他施設とのコミュニケーションを図る。		
実施状況 評価・反省	<p>国富町森永公園に、県央地区の4施設が集まりゲーム等を通して交流を深めた。他施設の方と「久しぶり」と再会を喜ばれていた。又、競技も全員がそれぞれにあった競技に参加し、笑顔も多く見られた。</p> <p>昨年度の反省を活かし、送迎は往復するのではなく、車両を2台使用したことでスムーズに移動できた。又、コーヒーをこだわりに持つ利用者の方が閉会式時に、自動販売機に走って行く等の行動が見られたので、気になる事に対しての事前説明等の工夫が必要だと感じた。</p>		
次年度への 課 題	・職員数が確保できれば、より多くの利用者の方が参加できると思われる。		

行 事 名	クリスマス会	実施日	平成29年12月22日（金）
担 当 者	ちゅら班職員		
目 的	クリスマスの意味を知り、キリストの誕生を感謝しお祝いする。		
実施状況 評価・反省	<p>今回のクリスマス会テーマは『オーロラ』ということで、各会場に色鮮やかな装飾を行った。当日までに、各準備担当の職員はしっかり準備することができ、余裕をもって当日を迎えることができた。</p> <p>昨年の反省を踏まえ、礼拝と祝会の間に10分間のトイレ誘導を計画に入れた為、開始時間を例年より10分早めて9時50分からの開始とした。しかし、健康チェックや準備に時間がかかり、15分遅れの開始となった。礼拝は予定した通り進み、祝会へと進んだ。10分間程を余裕をもって計画していたので、終了の大きな遅れはなかった。会食では、利用者による生ライブが披露され、大盛況であった。</p> <p>28年度の反省を踏まえ、開始時刻を早めたが、健康チェック等で、開始が遅れた。開始時間を早めるのではなく、礼拝・祝会の内容などを調整した方が計画通りに実施できると感じた。</p>		
次年度への 課 題	ゆとりのあるプログラム設定。		

4-10. 防 災

平成29年度支援プランに基づいて、主に次の項目を実施した。①防災（地震及び火災）訓練計画、実施による自衛消防体制の確立。②災害時の避難誘導體制の確立。③消防機器の管理、防災管理会社との連携・調整。①～③については、下記の通り年間計画に基づいて防災訓練を実施した。また、④緊急時・災害時の非常食対応の訓練も実施した。

担当：長嶺裕美・上原卓也・緒方敬士・櫻木 香

月	訓練種別	想定	目的	状況
4	消火 通報 避難	火 災	各活動場所からの避難誘導體勢、経路の確立	避難完了：13分20秒 火災想定だが窓が全開になっていた場所あり。交流館で入口にスリッパが置いてあったが中を確認していない。復旧に時間がかかった。基本的なことをもう一度見直す必要がある。
5	防火教育	災害時の非常食	緊急時の非常食対応	慣れない作業で準備が手間取り昼食開始が15分予定より遅れた。缶詰以外にもカップ麺やコーヒー粉等手軽で短時間で作れ温かいものも非常食に加えるとよいのではとの意見が出た。
6	総合防災 消火 通報 避難 救出	地 震	各活動場所からの非難誘導體勢、経路の確立	避難完了：10分14秒 地震想定だが窓やドアを開けていない。消火栓の活用ができていなかった。負傷者の状況がホットライン対応者に報告されていないため報告できていなかった、放送オペレーターも兼ねており適切でなかった。何をしていたのかわからない職員もいた。倉庫前のフェンス南京錠の暗証番号が周知されていない。勤務年数が短い職員が多くなってきたためか基本的な動作ができていない。
7	教育	健康講座 AED	・熱中症について ・AEDを用いた救急救命法の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱中症について。症状は体温上昇だけでなく、逆に低下する場合もある。高齢者については室温にも注意する。日頃から水分摂取を心がけ、経口保水液等塩分が含まれるものを摂取する。 ・ AEDは4つグループに分かれ、交代で手順を確認した。
8	教育	AED	・救急救命法（心肺蘇生・AEDを用いた除細動）の習得	AEDが一台故障しており、予定より1グループの人数が多くなりすぎ十分な練習が行えなかった。AEDは一度使用で終わりではなく、3分に一回解析する機能がある。本物のパッドは一度貼ると剥がれにくいいため、指定されている部位に必ず貼る。

9	消火 通報 避難	火 災	各活動場所空の 避難誘導体勢、経 路の確立	4月、6月の反省（基本的な防災・避難知識の不足）を受けて、チェック者がアドバイスを言いながら訓練を行った。非常ベルが鳴ってからの対応を一つ一つ具体的に説明。実際にその場で伝えることで正しい手順等がわかり効果的な訓練が行えると感じた。
10	未実施			行事が重なり日程がとれなかったため未実施。
11	消火 通報 避難	火 災	各活動班場所か らの避難誘導体 勢、経路の確立	避難完了：20分15秒 放送用マイクが見当たらないという問題が発生した。オペレーターマニュアルに沿った全ての館内放送ができず、職員間で連携して情報を共有しながら初期消火、避難誘導等にあたることになった。支援員室内の防災機器前に物が置いてあり放送や復旧に時間がかかった。携帯電話を使用した防災訓練も行うように指導あり。
12	教育	AED	新しく導入した AEDの取り扱いを 習得する	新AEDには、小児キーが付属しており6歳未満の小児の場合はキーを挿入し使用する。本体にモニターや音声案内が付いており流しながら実践できる。解析は2分毎。 質疑応答として服を着た状態でできるのかというのがあったが、基本は全裸。ただしバスタオルを上からかける等の配慮は良い。防水だがパット面は水分を拭いて使用する。
1	消火 通報 避難	夜間 火災	夜間の避難誘導 体勢、経路の確 立。	避難完了：13分30秒 チェック者のアドバイスあり。開始前にオリエンテーションも行った。厨房側階段下からの火災であったが、2階エリアの避難に職員が1名で対応しており時間がかかっていた。優先度を考えて行動する必要がある。
2	教育	防災DVD	防災DVDと火災 発生時対応フラ ッシュカードを 見比べ基本的な 行動を訓練に役 立てる	タイトル：病院向け火災時避難誘導（約20分） 病院と施設、規模の違いはあるが防災器具の取扱いや避難迄の動きや流れを学んだ。同じ内容を数回実施し、施設勤務職員58名中50名が参加できた。
3	未実施			感染性胃腸炎蔓延のため未実施

4-11. 平成29年度 苦情解決（相談）

担当～林 裕一

申出人	内容	対応
家族A	家族会で来園した際に、「居室にアリが来ている」と、支援員に話があった。	すぐに謝罪を行った。常に居室環境への配慮が必要な方なので、担当だけでなく、グループで清掃を行っていくこととした。
短期入所 家族B	短期入所利用中は、入浴のない日で、更衣を行うこととなっていたが、更衣を行っていなかった。「下着だけでも毎日着替えさせて欲しい」と話があった。	丁重に謝罪を行う。職員会にて、支援課職員に周知をした。
短期入所 家族C	短期入所利用を終えて帰宅する際に、「衣類が尿で濡れていた」と苦情があった。	配慮不足であったことを丁重にお詫びした。苦情の内容を朝礼・終礼、職員会にて周知した。
近隣住民	男性利用者の無断外出（住宅への侵入）事故後の対応について、利用者が侵入した住宅の住民より「上司による謝罪はないのか」と、グループホームいこいの家職員に対して苦情があった。 ・納得のいく説明が欲しい。 ・今後、この様な事が起こらないように対策を講じて、報告が欲しい。	苦情を受け、すぐに施設長が謝罪に伺った。要望に対しては、対策会議、課長会を開き対策を協議し、謝罪と報告、合わせて3回、ご自宅に伺った。
地域福祉 課職員	無断外出事故において、入所施設管理者の対応が遅く、住民の方が立腹。今まで、地域住民の方と築きあげてきた良好な関係が崩れ落ちた気がした。 下記の点について、回答、改善策の報告が欲しい。 ・当日の入所施設利用者の見守り方法について。 ・所在不在時の搜索方法について。 ・入所職員の初期対応について。 ・管理者への連絡のあり方について。 ・謝罪など対応の遅れについて。 ・今後の対応、改善内容などについて。	施設長、支援課長、支援課主任（2名）で、意見に対する協議を行い、グループホーム職員会にて、謝罪を行い、意見に対する説明を行った。

《はびねすの窓実施状況》

苦情解決第三者委員（外部）

並 タツ氏、日高義治氏

担当～林 裕一

月日	申出人	内容	対応
6. 17	ふれあい利用者A	ふれあいの作業で、肩たたき棒を150本作った。写真立ても作った。 今、気になることは睡眠の事で、睡眠中に幻覚、幻聴も出てきて悩んでいる。いろいろな言葉が聞こえてきて夜もあまり眠れない。	・第三者委員よりアドバイス ・ふれあいサービス管理責任者へ内容を報告。
	施設利用者B	・手首が痛い。腫れている。 ・「姉にビーズを持って来て」と電話する。 ・Aコープにお菓子を買に行く。 ・何も無い時はイライラする。新聞たたみをすると落ち着く。	
	施設利用者C	女性職員の名前と絵を書いていた。特に相談などは無かった。	
	グループホーム利用者D	・陶芸でロクロをすることが好き。 ・コーヒーはジョージアが好き。 ・CDをイオンで買う。 ・手が曲がっているので、リハビリをしている。 ・買物が好き。	
	施設利用者E	・テレビが好き。（天気予報・野球） ・コスモス薬局での買物が好き。 ・困っていることはない。職員も優しい。 ・家族会に誰も来なかった。	
	施設利用者F	・他の利用者が部屋をのぞくと、「ダメ」「イヤ」 ・困ったことはない。	
	施設利用者G	第三者委員の「猫は？」「犬は？」の問いに、「ニャーン」「ワンワン」と答える。楽しい時間を過ごしていた。	
	グループホーム利用者H	・青い鳥（グループホーム）が好き。 ・コスモス薬局でハンカチを買った。 ・魚が好き。	

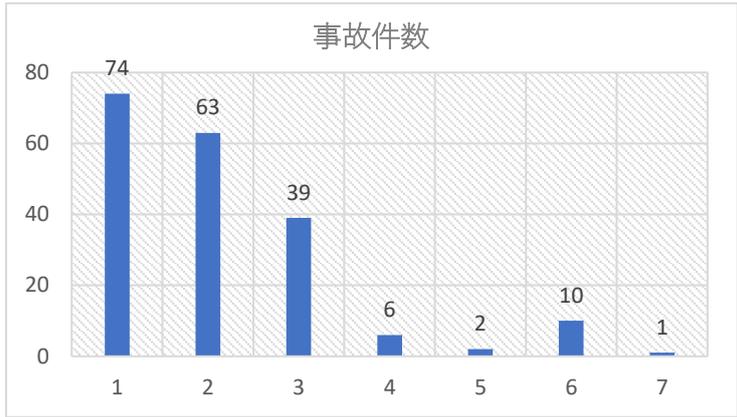
月日	申出人	内容	対応
2. 17	施設利用者C	背中がかゆいと訴えあり。	処方薬で対応
	施設利用者B	・イオンに行きたい。	
	施設利用者E	・買物でクッキーが買いたい。	
	施設利用者F	・特に困ったことはない。	
	グループホーム利用者D	・CDが欲しい。	
	施設利用者I	・特に要望は無い。 ・両親の誕生日に施設に面会に行く。	
	施設利用者J	初めての参加。問いかけに笑顔はあったが、本人からの言葉は聞かれなかった。	

平成29年度も、第三者委員による、苦情解決相談を2回実施した。回を重ねるごとに、「はびねすの窓」が定着してきたように感じる。また、第三者委員の両氏からも「回を重ねるごとに、利用者の言葉が分かり、理解が深くなった」という話もあった。利用者の方も楽しみにされており、コミュニケーション力の向上にも繋がっている。

対応が必要と思われたことに関しては、引継ぎを行った。

【事故報告】

- 1. 薬に関すること
- 2. 利用者の行動
- 3. 転倒
- 4. 職員の行動
- 5. 環境・福祉用具
- 6. 無断外出
- 7. その他



内容	H29											H30	計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1. 薬に関すること	4	4	6	9	5	9	8	2	8	8	8	3	74
2. 利用者の行動	5	6	5	6	1		4	2	13	10	3	8	63
3. 転倒	3	3	6	1	1	2	2	2	5	5	4	5	39
4. 職員の行動	2	1		2			1						6
5. 環境・福祉用具			2										2
6. 無断外出		1			1				1		3	4	10
7. その他									1				1

※薬に関すること・・・誤薬・薬が落ちていた・投薬忘れ・準備忘れ 等

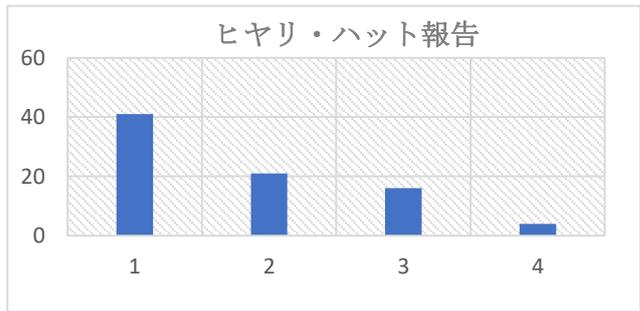
※利用者の行動・・・異食・盗食・利用者間トラブル 等

※職員の行動・・・施錠忘れ・機器の取り扱いミス・設備の破損 等

事故報告件数は195件。内訳は、薬に関することが36%、利用者様の行動による事故の報告が30%、転倒が19%であった。29年度の薬に関する報告数が多く、業務改善会議にて対策を協議し、職員に周知した。転倒に関しては、頻繁に転倒の見られる方は、センサーマットなどの福祉機器を導入したことで、転倒を防ぐこともできた。無断外出が10件。2月入所利用者の支援体制が整っていないことが要因であった。

【ヒヤリハット報告】

- 1. 利用者の行動
- 2. 職員の行動
- 3. 環境・福祉用具
- 4. その他



内容	H29											H30	計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用者の行動		5	4	5	3		5	2	3	8	4	2	41
職員の行動	2	3	4	7	2	1				1	1		21
環境・福祉用具	1		3			2			6	2	2		16
その他		2									2		4

※利用者の行動・・・外に出ようとする・車椅子から立とうとする 等

※職員の行動・・・施錠忘れ・薬に関すること 等

※環境・福祉用具・・・機器の不具合・廊下が濡れていた 等

4-13. 平成29年度ボランティア受け入れ

担当～五島千恵子・蛭原翼（福島光男）

No	期日	個人・団体名	人数	内容
1	5月9日	サフラン会	8名	窓ふき清掃
2	7月3日	個人	1名	利用者支援
3	7月11日	個人	2名	環境整備（花植え）
4	10月21日	医療管理専門学校・職員家族	5名	まつりボランティア
5	2月25日	やまびこ会	20名	芸能ボランティア

4-14. 平成29年度地域交流

担当：五島千恵子・渡部強士

エデンの園まつりを実施するにあたり、地域の方々に案内をしていたが、当日の天候不良で法人関係者のみの実施となった。又、三名地区のグランドゴルフ大会に参加する機会がありましたが、参加人数に達せず、参加することはできなかった。

これからの福祉は今まで以上に地域社会との結びつきが大切になってくるため、係として受け身の体制でいるのではなく、体制を整え事業として積極的に展開していくことも必要である。

陶芸教室実績

開催月	依頼者	人数
10月	大野フルーツパーラー	6
11月	三名保育園	28
1月	本庄西部保育園	18

4-15. 平成29年度実習生受け入れ

担当者：日高武敏、渡部強士、山本和寛、岡本知香、庵崎梢、塩満裕子

No	期間	学校名・施設名	人数
1	平成29年6月23日（金）	宮崎学園短期大学	4名
2	平成29年6月26日（月）	宮崎学園短期大学	4名
3	平成29年7月21日（金） 平成29年7月24日（火）～平成29年7月28日	日章学園高等学校	1名
4	平成29年8月16日（水）～平成29年8月29日（火）	宮崎学園短期大学	2名
5	平成29年8月30日（水）～平成29年9月12日（火）	宮崎学園短期大学	2名
6	平成30年2月13日（火）～平成30年3月2日（金）	宮崎医療管理専門学校	1名
7	平成30年2月20日～2月21日	生活介護事業所オレンジ	2名

4-16. ショートステイ事業報告

担当：蛭原翼 園田海生 岡本知香 松下里美

ショートステイ利用推移 (男子)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A	6	7	7	7	7	4	7	7	6	10	7	0	75
B	8	6	6	8	8	8	8	8	8	8	8	4	88
C	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	22
D	2	0	2	2	3	3	0	3	6	3	5	5	34
E	0	0	0	0	0	0	0	7	7	7	0	0	21
F	0	0	0	0	0	0	0	2	11	12	12	11	48
合計	18	15	17	19	20	17	17	29	40	42	32	22	288

ショートステイ利用推移 (女性)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
J	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	0	4	45
K	1	2	2	2	0	2	2	2	2	0	2	2	19
L	4	2	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	11
合計	10	8	6	8	4	6	6	6	6	7	2	6	75

今年度は、新規利用の方も含め男女9名の方が、利用されました。内、新規の方は2名となっています。表記の通り、毎月ショートステイ利用が入っていました。

4-17. 土曜学校報告

担当：五島千恵子・園田海生

月	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
4月	1日 金牧師	8日 印牧師	15日 海老原牧師	22日 原田牧師	29日 浅野牧師
5月	6日 金牧師	13日 印牧師	20日 中止 感染性胃腸炎流行のため	27日 中止 感染性胃腸炎流行のため	
6月	3日 廣瀬施設長	10日 印牧師	17日 海老原牧師	24日 原田牧師	
7月	1日 金牧師	8日 印牧師	15日 海老原牧師	22日 原田牧師	29日 印牧師
8月	2日 金牧師 ボランティア来園	12日 浅野牧師	19日 海老原牧師	26日 金牧師 ボランティア来園	
9月	2日 原田牧師	9日 印牧師	16日 海老原牧師	23日 原田牧師	30日 浅野牧師
10月	7日 金牧師	14日 印牧師	21日 海老原牧師	28日 五島職員	
11月	3日 荒平牧師	10日 印牧師	17日 海老原牧師	24日 原田牧師	
12月	2日 金牧師	9日 中止 風邪流行のため	16日 海老原牧師	23日 原田牧師	
1月	6日 金牧師	13日 印牧師	20日 原田牧師	27日 荒平牧師	
2月	3日 金牧師	10日 印牧師	17日 荒平牧師	24日 原田牧師	
3月	3日 金牧師	10日 印牧師	17日 中止 インフルエンザ流行のため	24日 原田牧師	31日 浅野牧師

- ① 宮崎市内のつの教会から牧師に来ていただき、聖書からのメッセージをしていただきました。毎週一緒に讃美し、イエス様の話を分かりやすくメッセージしていただき、共に祈る時間をもつことが出来ました。
- ② 5月20日、27日、12月9日、3月17日の計5回の土曜学校は、園内で複数名の利用者が感染性胃腸炎やインフルエンザを発症されたので拡大防止の為、中止とした。

～来園者牧師～

- | | |
|------------|--------------|
| *金 桓基 牧師 | 宮崎めぐみ聖書教会 |
| *印 慶子 牧師 | 宮崎柳丸キリスト教会 |
| *原田 彰久 牧師 | 宮崎清水町教会 |
| *海老原 直宏 牧師 | 宮崎北聖書キリスト教会 |
| *荒平 大輔 牧師 | 川南せせらぎキリスト教会 |
| *浅野 謙 牧師 | 霧島キリスト教会 |

4-18. 新 任 教 育

担当：日高武敏・渡部強士・岡本知香・山本和寛・庵崎梢

1 概要

平成27年度から始まった新任職員向けの体系的な教育も3年目となり、4月に複数名の入職があった。以降も入職者があった時に教育を行った。

＜新任職員に教育をする意味＞

- ①根拠に基づいた知識をしっかりと教えることで一定の水準（既存職員と同程度の水準）の業務を1日でも早く行えるようにし、結果として利用者へのサービスの質を担保する。
- ②既存職員が新任職員に必要な知識をしっかりと教えることで自分の仕事を振り返り、結果として利用者サービスの質を向上させる。
- ③質の高いサービスを提供することで、利用されている方と障害者福祉サービスを利用したいと考えている方に選ばれ利用し続けてもらえる事業所になる。また、安心して働けるよう教育プログラムを構築することで、（人材不足に悩まされている昨今の福祉業界において）福祉事業所で働きたいと考えている方に選ばれ働き続けてもらえる法人になる。

2 研修項目（今年度からパート職員も参加）

法人の理念と今年の重点目標	権利擁護と虐待防止法		
障害者と支援の視点および関係法令と制度	支援課の業務と委員会等の職務		
身体構造・起居・移乗・移動	接遇・マナー	コミュニケーション	
苦情相談と事故対応	特性・疾患・薬剤とバイタル	食事	
金銭管理と家族支援	薬剤チェックと緊急時の対応	歯磨きの仕方	
入浴・部分浴・清拭	リスクマネジメント	乗車・降車	整容支援・更衣
各種記録と業務日誌	排泄	メンタルヘルスチェック	
相談支援事業	支援計画とケアプラン	清掃・洗濯・ベッドメイキング	
働くとは・仕事とは	社会福祉学	自閉症・発達障害	強度行動障害
就業規則等	国富町案内	点字・白杖等視覚障害者支援	

3 今後の課題

今年度も昨年度までの課題が解決することはありませんでしたが、その表出している課題の原因がはっきりしてきました。それは、例外なく職員一人一人全員が取り組まなければいけないにも関わらず、『人材育成（組織力向上）への興味・関心』が高まっていないことです。例え、「困ったことがあったら、いつでも言って。」と口では言っていたとしても、その職員のことに関心し適切なアドバイスを行う姿勢がなければ、人は育っていかず、利用してくださっている方々に迷惑をかけてしまいます。より良い支援を行える人材を育てるためには、とても大きなエネルギーが必要ですが、受動的な人材育成ではなく、積極的な人材育成が必要になってきます。

今後、職員に育ってもらう環境を整えることへの責任と義務を自覚することで、これらのことを改善していき、エデンの園の職員として人間力も高めていく必要があると考えます。

5. 平成29年度地域福祉課総括

地域福祉課長 坂元淑子

【総括】

平成29年度、地域福祉課では生活介護、共同生活援助、相談支援、放課後等デイサービスの4事業を運営してきました。

課として、それぞれの事業所としての重点目標はありますが、中長期ビジョンに沿った取り組みも行ってきました。

① 生きがいのある生活

新たな事業所の開所については支援課で取り組みましたが、新年度のスタートに向けては地域福祉課の関係機関、ふれあい、グループホーム、相談支援事業所も加わって調整を行い、利用者の希望や適性、事業所の運営も考え、意見を交換しました。

新たなグループホームの建設に関しては、青い鳥と同じホームをその南側に建てる予定でしたが、諸事情により別の土地を購入し、新たに図面を引き直すことになりました。その際、地域のニーズに応えるという取組から、短期入所のための部屋も設けることにしました。平成30年度の利用者募集に向けてグループホームを理解していただくために7月1日に「グループホーム説明・見学会」を開きました。町内の相談支援事業所にもお知らせしましたが、国富町にある障がい者関係の団体の方と役場職員のみ、計7名の参加でした。アンケートの結果、職員体制や費用、家・部屋の造り、職員のことなどについて知ることができ参考になった、細かい説明の後の見学でイメージし易かったなどのご意見をいただきました。また、子供さんの将来について、グループホームを希望されている方が1名、一つの選択肢としてグループホームを考えたいという方が5名おられました。中には、実際に生活している様子も見ることができればより参考になるという意見もあり、次回の見学会に活かせればと思います。グループホームへの理解については、青い鳥の利用者を地域に出す際、支援課の職員にも不足していると感じていたため、9月から11月にかけて行ったいこいの家での体験では実態を知ってもらうことができ、今後の利用者支援に結びつくことを期待します。新しいグループホームについては県への申請も行い、平成30年度の準備へとつなげました。

② 安心できる高齢者支援の仕組み

新しいグループホームも高齢者を対象としたバリアフリーで考えています。しかし、地域福祉課としての高齢化への取り組みはまだ具体化しておらず、今後の課題です。介護との関係など、社会の動向にも注目しておかなければなりません。

③ 地域のニーズにこたえる

グループホームと看護師との医療連携体制が整いました。毎月の訪問や連絡により看護師が地域の利用者の実態を知ることができ、グループホーム職員も相談できて利用者の健康や生活の安心にもつながりました。

先進地（熊本県菊池市の菊愛会）視察については地域福祉課から3名が参加しました。地域ぐるみの支援、包括的支援についての説明を聞きながら、職員の情熱や質の高さを感じました。エデンの園でも、利用者主体で仕事を考え実践できる職員の育成、そして地域のニーズに応えるサービスの提供について、少しずつでも着実に実践していく必要性があります。

次年度も、計画に沿って引き続き中長期ビジョンの実現を目指します。

人材については、年度途中に入れ替わりのあった事業所も複数あり、運営の難しさを感じました。目の前の人の動きにその都度対応することが多かったように思いますが、過去の反省のもとにより良い運営を考えたり、先を見通して今どうあるべきかを考えたりして年度当初に広い視野で捉え、そこにどのような人材を配置し、また、育てていくのかをしっかりと計画して取り組んでいかなければならないと考えます。

各事業所に挙げてあるヒヤリハット報告・事故報告については、若干ではありますが昨年度より件数が増えています。これは発生件数の増加とだけ捉えるよりは、報告に挙げることによって改善を図ろうという姿勢の表れだと考えます。起こったことは職員で共有し、改善策をマニュアル化することによって同じミスを繰り返すことのないよう気を付けていきたいと思えます。苦情も全体6件あがっていますが、今後更に地域に出る機会が多くなると一般の方からの苦情も増えていくことと思えます。丁寧な対応をするとともに、一人ひとりがエデンの園の職員としての自覚をもち、外からの目を意識して行動することも大切です。

虐待については、グループホームで2件の案件が上がり、関係機関へ通報を行いました。支援と虐待とは紙一重の部分もあります。支援については職員で共通認識をもって取り組むこと、特にグループホームでは一人で複数の利用者に対応することが多く、外からの目が届きにくいので、悩んだらすぐに相談できる組織の確立も必要です。

【平成29年度地域福祉課の重点目標】

① 各事業所の円滑な運営

利用や契約数についての結果は下の表の通りです。(小数点以下切捨て)

ふれあい(定員20名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
契約数	22名	22名	22名	23名	23名	23名
平均利用者数	19名	19名	19名	18名	19名	18名
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約数	23名	23名	23名	23名	23名	24名
平均利用者数	18名	18名	18名	18名	18名	19名

定員数に近い利用にはなっていますが、年間を通してほとんど変動がありませんでした。相談支援事業所への働きかけ等を行って利用者数を増やす必要がありましたが、一度、総合福祉センターを訪問しただけでした。

グループホーム

ホーム名	ホームみらい	いこいの家	のぞみの家	青い鳥
定員	8名	4名	4名	7名
入居者数	8名	4名	4名	7名

年度内の変動はなく、安定していました。

相談支援事業所

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
成人契約数	124名	125名	126名	127名	128名	129名
児童契約数	17名	18名	21名	22名	22名	23名
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
成人契約数	132名	134名	136名	138名	141名	142名
児童契約数	25名	26名	26名	26名	29名	31名

児童が徐々に増えてきています。

麦わらぼうし（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
契約数	8名	8名	9名	11名	13名	13名
平均利用者数	4名	4名	5名	7名	7名	8名
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約数	13名	13名	13名	13名	13名	13名
平均利用者数	8名	8名	9名	8名	9名	8名

平成28年11月に2名で開所し、徐々に増えてきて平成29年度は8名からのスタートでした。定員数に近い利用にまでは伸びてきましたが、毎日10名の利用のために必要な15名の契約には至りませんでした。

集団感染により運営に大きな影響を与えることはありませんでした。基本的な手洗いうがいの励行や消毒等が徹底していたからだと考えます。ただ、通院等に関して敏速な対応がとられていないことがありました。職員や事業所間の引継ぎや連携を図りながら、利用者主体、健康優先で業務を行う必要があるため、今後徹底したい課題です。ふれあいの長期欠席者については、他の事業所を勧める話も出ましたが受け入れていただけず、このまま利用できる状態を保っておくという結論に至りました。

毎月、チーフとの打ち合わせ会を実施し、目標達成についての進捗状況、現況報告、問題点や課題の洗い出し、支援の進め方について話し合いました。管理運営の立場から問題点をしっかりとらえ、より良い解決方法を考えて円滑な運営に繋げていくという意識をもって取り組ん

でいく姿勢が大切だと感じています。

② 関連機関との連携による公益事業の取り組み

東諸地域福祉コーディネーター連絡会には、地域福祉コーディネーターが2カ月に1回の定例会に出席しました。この会では、子ども食堂の準備を行ってきました。また、様々な職種の方が参加しているため、情報交換や連携によって、平成29年度はふれあいの国富サンライズバンド（SKB）のさくら苑でのコンサートが実現しました。小編成の演奏でしたが、さくら苑さん側はデイサービスにまで声を掛けられ、場を盛り上げる対応をしてくださいました。今後は地域のサロンで演奏できないか、国富町社会福祉協議会のコーディネーターに投げかけています。

【貢献事業】

東諸地域福祉コーディネーター連絡会の他にも関連機関との連携によりいくつかの活動を行いました。

4月よりみやざき安心セーフティネット事業に加盟し、相談支援事業所にコミュニティーソーシャルワーカーを配属して相談活動を行いました。経済的援助が必要な生活困窮者への支援の例はありませんでしたが、4件の相談を受け付けました。その中に設備の関係から自宅での入浴が十分でない方がおられ、地域福祉支援センターで入浴（シャワー）サービスを提供する仕組みを作りました。放課後等デイサービスの営業を考え、午後5時15分から午後6時までの利用で、1回50円の料金としました。実際には利用される方はいませんでしたが、このサービスについては国富町社会法人等連絡会でもお知らせしました。そこでの対象者は仕事の関係でこの時間帯の利用は難しいとのことでしたので、時間の変更を考慮することは伝えました。真の社会貢献のためには、利用者に合わせて対応が必要だと考えます。

国富町社会法人等連絡会では、社会福祉法人協働型地域貢献モデル事業について提案があり、できる範囲で協力を行いました。「シニア元気アップ運動教室全体交流会の送迎支援」では、日頃各地区で行われている健康教室の全体会が12月20日に開かれるということで、3事業所から4台の公用車を出し、6名の職員が4地区の公民館と会場のアリーナくにとみ間の送迎を行いました。「フードバンク事業」では、保存食を2つに分けて三名の入所施設と竹田の地域福祉支援センターに備蓄し、生活困窮者への配布に備えました。29年度の利用はありませんでした。「子どもと障がい者の交流事業」では、2月24日に森永保育所、麦わらぼうし、向陽の里、ふうせんバレーの会の4団体が参加し、ふうせんバレーやじゃんけんゲームを楽しみました。

その他、SKBは田中外科医院のグループホーム「コスモス」でもミニコンサートを行いました。8月27日には国富町社会福祉協議会主催の「きれいなまちづくりボランティア」にグループホームの利用者と職員計4名が参加し、ゴミ拾いを行いました。

現在、エデンの園では地域との交流が昔のように行われている状態ではありません。共生社会を目指している今、地域に根差した社会福祉法人であるためには事業運営ばかりではなく外にも目を向け、地域の方のお役に立てるよう、上記のような地域貢献活動に積極的に取り組んでいきたいと考えます。